

懇談会発言予定分 提案・質問・意見の要旨

1. 新たな連携事業の検討に際して

圏域マネジメント能力の強化

(1) 各市町の首長を構成員（営業マン）とした圏域プレゼン力の強化

各市町が抱える誘致対象企業リストを、開示・一元化して洗い直しを行い、単独町と旭川市の「協働プレゼン」、単独町と単独町による「連携プレゼン」、圏域一丸となった「圏域プレゼン」の体制で、ランク分けされた有望企業に、再アプローチを行う。

生活機能の強化（産業振興）

(2) 市内地域商店街と近隣町中心集落の有機的結合を図る振興策

旭川市が抱える地域商店街の再興策に、直近の近隣町住民を参画させ、一方、近隣町の中心集落活性化に、直近の旭川市民を参画、各々が抱える緊要の課題に、内側と外側からの再生手法をあてがう。

結びつきやネットワークの強化

(3) 圏域が抱える有意なフットパスの整序

2. 予算付けを伴わない連携事業案について

「赤れんがチャレンジ事業」（北海道）・「ゼロ予算事業」（旭川市）など、具体の予算を伴わない施策運営が、スタートしているものと思われます。広域圏行政において、こうしたかたちの事業立案は、叶わないのでしょうか？

3. 新たな連携事業案について

(1) 地域公共交通維持確保改善事業

交通弱者・買物弱者への対応は、強く危惧される枢要の課題と認識しますが、これへの対応を「路線バス」に主眼を置いて進めることは、現状と施策との間に、強い乖離を生じさせるのではないかと（福祉タクシーのようなものに軸足を置いた連携こそが望まれている）

(2) スポーツ合宿誘致事業

層雲峡・天人峡といった、圏域が誇る生成りの観光資産振興が、具体の事業案として強く打ち出されていないものとも受けとめられる。合宿誘致事業において、マチバのビジネスホテルだけが潤い、老舗の近隣旅館施設が閑散とした状況になれば、地域の賛同を得られるものとならないことを、強く留意すべき（全てに平等で、全てに分配される）

小手先だけの連携事業提示では、構想全体の広がり・奥行きを感じない。 添付参考資料